

◆森林保全活動

令和3年11月5日（金）

【場所】石鎚山成就地区 第2園地遊歩道

【参加者】曾我部英司（事務局長）、岩本昌美・黒河由佳（事務局スタッフ）、藤原隆子（サポートスタッフ）

恒例の森林保全活動ですが、コロナ禍を考慮して事務局スタッフのみで実施しました。

現地に入って少し驚いたのは、いつもは遊歩道がちゃんと見えているのに、今年はその所々にササが顔を出し、膝の高さほどササに覆われているところも。コロナ禍で如何にこの園地を訪れる人が減っているかの証です。しばらくササ刈りを続ければ、人の声が遊歩道に入つて来ます。やつて来たのは「法螺貝を吹くお山の郵便屋さん」として知る人ぞ知る山本さん！大分県からの登山客お二人をこの山頂展望所にご案内のこと。例のごとく山本さんがお山に向つて法螺吹鳴されると、お二人は大変喜ばれ、これから山頂達成の鳥居まで行くと話されました。偶然とはいえ、今しがたのササ刈りが少しお役に立つたようで、私たちもうれしくなりました。

深い秋色のお山で一同気持ちの良い汗を流し、第2園地遊歩道全コースと30人掛けベンチ周辺の山頂展望所のササ刈りを無事に終了しました。



* * * ご支援ありがとうございます * * *

石鎚森の学校は17年目を迎えました。当団体の活動は、皆様のご参加・ご協力ならびに、会員の皆様の会費・寄付金などに支えていただいており、心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。新規のご入会もお待ちしています。

正会員63名
／年会費5千円
賛助会員48名
／年会費3千円
団体会員3団体
／年会費3万円
(令和4年7月末現在)

団体会員様（順不同）
セキ(株)
(有)石鎚観光
(株)愛媛銀行

石鎚山の伝承 乳杉

今宮古道沿いに「乳杉」と親しまれる木があります。

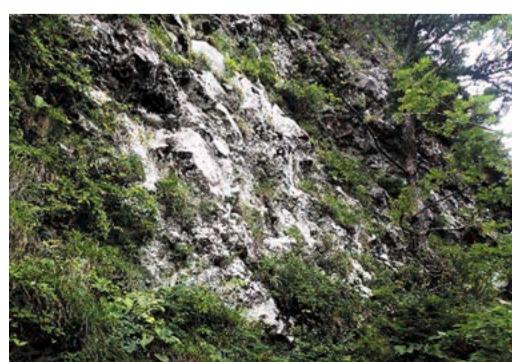
根元から二股に分かれ、大きいのを女杉、小さいのを男杉と呼びます。樹齢800年以上とも言われ、目通り約4.6m、高さ30mになります。

女杉の幹には乳房に似たコブがあり、母乳が出ない母親がその皮を煎じて飲めば母乳が出ると伝えられています。



石鎚山系 植物ホットスポット

石鎚山系は森林とササ原に覆われ緑豊かな地域で、生物多様性ホットスポットと呼ばれる絶滅危惧種が集中して生存している部分があります。その植物のホットスポットについて説明します。



岩黒山近くの岩壁



テバコマンテマ

7月下旬、そのうちの一ヶ所である岩黒山近くの岩場を訪れました。登山道からそれて急斜面を下り目的の岩壁下に着くと、足元ではテバコマンテマが花盛り。見上げるとイワギク、オオトウヒレン、ソバナ、イシヅチボウフウ、イワガサ、ウショウランなどが腐葉土の堆積した狭い岩棚や岩の割れ目にあちこちに生育し

一期一会・石鎚山系の表情

～秋本栄さんに石鎚山系の写真をご提供いただきました～



写真【上】雲海の石鎚山（瓶ヶ森林道より）

【中左】弥山山頂の夜

【中右】日輪の朝（石鎚山）



【石鎚森の学校】VOL.18

2022年度号

発行日 2022年9月
制作 NPO法人 石鎚森の学校
〒793-0062 西条市西田甲797番地
Tel & Fax 0897-52-5275
URL <http://ishizuchi.net/>



昨年度に引き続き、アマチュア写真家の秋本栄さんにご提供いただいた写真をお届けします。一般的にはそのタイミングには出向くことが難しい、早朝や夜間の石鎚山の壮大な姿です。

新型コロナウイルスの影響が継続する中においても、人知れず日々再生を繰り返すかのような自然の姿は、安らぎや気づきをもたらしてくれます。

秋本さんは、コロナの感染状況や登山者の様子を踏まえながらお山へ足を運び、ライフワークである写真撮影を少しずつ再開されているとのこと。当団体も、コロナ禍を通して培った知恵をもとに、安全な対策で野外活動を徐々に拡大していきたいと考えています。

【主催】愛媛県、県山岳・スポーツクラブライミング連盟
【指導・運営】県内山岳関係団体のボランティアスタッフ、愛媛県環境局職員約40名
【参加者】親子連れ約90名
【石鎚森の学校】参加者：曾我部英司（事務局長）、岩本昌美・黒河由佳（事務局スタッフ）、藤原隆子・秋山一幸（サポート）

環境啓発登山



ホソナナヤマハハコ

令和4年8月11日（木・祝）
コロナ禍で3年ぶりの開催となり、抽選で約45組・100名となった山の日恒例の親子啓防対策を行つたうえで実施されました。コロナ禍で3年ぶりの開催となり、抽選で約45組・100名が選ばれたとのこと。感染予防対策を行つたうえで実施されましたが、記念撮影してほつと希望は開けてはいませんでした。その後、避難小屋周辺でスをサポート。瓶壺から水を出す水辺では、イシヅチのサンショウウオの幼生を観察することができます。最初に瓶壺を目指す水見コ

者約10名に指導者2～3名で構成する班で行動しました。

石鎚森の学校メンバーは最

初に瓶壺を目指す水見コ

スをサポート。瓶壺から

水をとり、石鎚山系の自然

に関するレクチャーや観察

を行つた。その後、避難小屋周辺でスをサポート。瓶壺から

水を出す水辺では、イシヅチのサンショウウオの幼生を観察することができます。最初に瓶壺を目指す水見コ

インタープリター研修

令和3年10月11日(月)、18日(月)、26日(火)

【場所】1・2日目：古岩屋荘2階会議室&周辺屋外フィールド／上浮穴郡久万高原町

3日目：大保木公民館&周辺屋外フィールド／西条市中奥

【参加者】石鎚山系の案内に関わる団体から19名

【講師】菊間彰氏 ((一社)をかしや代表理事)

【主催】石鎚山系エコツーリズム推進協議会、愛媛県自然保護課

【森の学校参加】曾我部英司 (事務局長)、岩本昌美 (事務局スタッフ)

インタープリターとは自然や歴史、文化などの案内人ですが、通常のガイドとは異なり、「知識」や「情報」ではなく、その奥にある「本質」や「メッセージ」を伝えることを目指します。そのため喋るのではなく、体験を通じて魅力を伝える「アクティビティ」を創造して実践する研修となりました。

1日目、「その場所の知識が無くても案内ができる」とはどうやって?と思つていきましたが、講師の菊間さんの案内はほとんど喋らず、アクティビティを通してその場の環境を体感させ様々にその環境に思いを馳せるものとなっており、謎が解けました。

2日目は、参加者が4チームに分かれ、屋外で熱心にオリジナルモデルツアーの構築と展開にチャレンジ。インタープリターについて分かりかけてはきたのもの、無意識のうちにいつい喋って自分の望む?答えに参加者を誘導しがちです。

3日目の午前は、新たなチームでアクティビティづくりのために資源調査を行い、午後はガイド実習。皆さんのアクティビティの作り方やガイド振りに上達が見られました。

私たちも「周辺環境の本質を伝えるガイド」について理解を深め、実践することができました。とはいえ、喋ることもガイドにとっては大切なことで、学んだことを活用しつつ、石鎚山のご案内をさらに楽しく務めたいと思っています。そして両名とも、推進協議会の「認定エコツアーガイド」と「全国体験活動指導者認定委員会」が認定する「NEALリーダー」の資格を取得しました。



祈りを形にした舞台 「あ(明)ける。」舞台初演無事終了

令和3年12月26日(日)

【場所】石鎚神社会館(西条市西田)

【演者・スタッフ】久寿奏恵(アマテラス役・振付)、阿部一成(鏡職人役・脚本・音楽)、曾我部英司(語り部・大いなる存在役・祝詞)、梶原徹也(ドラム)、土居淳(キーボード)、前田剛史(太鼓・篠笛)、今泉志奈子(劇場案内人・司会者)等関係者多数

【企画・制作】篠笛スタジオ

【協力】石鎚神社、NPO法人石鎚森の学校

当初令和元年5月に石鎚神社中宮成就社にご奉納予定であったこの舞台。コロナ禍により、別子銅山集落跡地など山中においてプロモーションビデオを制作、令和2年12月には伊予市のミュゼ灘屋を舞台に無観客で本編を収録し、ユーチューブで国内外に同時配信するなど、様々な手法で取り組んできました。

そしてようやく、沢山のお客様を前に初演を無事納めることができました。演者、奏者、舞台スタッフが心を合わせそれぞれの技を尽くし、世界中の子どもたちと、かつて子どもだった人たちへ、不安・恐れの向こうに明けていく光のなかで私たちが生まれて初めて舞い、歌い、語り始めた頃のはじまりの物語となって「神さまは大きなかみさま。人間は小さなかみさま。」人と祈りと大いなる存在の融合・共創の舞台『あ(明)ける。』が、展開されました。

演者のアフタートークでは、例によって?曾我部事務局長も笑いを取りながら出演の経緯や初舞台の感想を披露。それぞれの世界での舞台プロの中での貴重な体験のご縁に心を熱くしてその思いを語っていました。



石鎚山系エコツーリズム 推進体制強化人材育成研修

令和4年3月2日(水)、3日(木)

【場所】1日目：白石旅館民芸茶屋／石鎚神社成就社境内

2日目：石鎚神社本社・神社会館／西条市西田

【参加者】愛媛県自然保護課、エコツーリズムに取り組む関係団体のメンバー等計15名

【主催】(株)ソラヤマいしづち/石鎚山系エコツーリズム推進体制強化事務局

【森の学校参加】曾我部英司 (事務局長)、岩本昌美 (事務局スタッフ)

石鎚山系をガイドする方々より、「石鎚神社を案内する機会があるため、正確なことを知っておきたい」と、本業石鎚神社の神職である曾我部事務局長に講師の依頼があり、神社や石鎚山の歴史、文化について座学を行いました。NPOの事務局として、テーマを神社関係に絞ってほぼ半日お話してきたのは初めてのことだったと思います。

2日目午前は、(株)四国遍路代表取締役の佐藤氏より「四国におけるアドベンチャーツーリズムの可能性と受け入れ体制強化の必要性」と題して講演が行われました。「アクティビティ」「自然」「文化体験」の3要素の2つ以上で構成される旅行「アドベンチャーツーリズム」。インバウンドを中心に、少人数で高価なツアーを催行してきた過程や手法、案内箇所のネットワークの構築等を解説していただきました。午後からは、石鎚神社本社の正式参拝および、境内・社殿等を担当の神職さんに案内していただき、終了となりました。両日共に普段にはないテーマに沿っての有意義な研修となりました。



石鎚山系連携事業協議会 令和3年度第1回環境安全対策・登山分科会



令和3年11月26日(金)、西条市役所にて標記協議会が開催され、曾我部事務局長、岩本昌美事務局スタッフが参加しました。

協議会は、愛媛県と高知県の西条市、久万高原町、いの町、大川村の1市2町1村と大学や観光関係、また民間の石鎚山系での活動団体、さらにサイクリング関係団体等で組織されています。

組織されています。今回の環境安全対策・登山分科会では、令和3年度の事業報告と4年度の事業予定が審議され、それぞれに可決承認されました。また、安全対策の一環として山系への道標設置も進められています。

愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会 令和3年度報告WEB会議

令和4年2月16日(水)、コロナ禍のため急遽WEBEXを利用した会議となり、当事務局からは、曾我部事務局長、黒河事務局スタッフが参加しました。

各部会の報告では、石鎚山系の高標高地では、シカ被害の面的広がりが鞍瀬峠を越えて東黒森山まで近づき、被害度が中から大へ、北側斜面(新居浜市、西条市)の中低標高地では、シカが集中する部分があり被害度は大ながら面的な広がりはあまり無いとのこと。特に東明石山では被害が急速に拡大しており、固有種を含む希少種の保全が急務となっているとのことでした。豊かな自然が息吹く石鎚山系を未来に伝えるために私たちは何ができるか考えさせられます。

